

令和元年 10 月 25 日
札幌管区気象台

地方気象台等における目視観測通報の自動化等について

近年、気象レーダー・気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、地方気象台・測候所における観測業務のあり方を見直し、目視観測通報を自動化します。

また、地上気象観測における降雪や積雪に関する統計項目を追加しました。

1. 目視観測通報の自動化について

これまで地方気象台・測候所では、気温、風、雨量、日照などを自動で観測するとともに、職員が目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測してきました。札幌管区気象台を除いた北海道地方の地方気象台・測候所において令和2年2月3日（予定）より、目視観測通報を自動化します。

地方気象台・測候所が行う防災気象情報の発表に影響はありません。

（1）自動観測に移行する観測種目

地方気象台・測候所で観測通報する天気、大気現象は以下の観測種目となり、職員による目視観測から自動観測に移行します。

晴、曇、雨、雪、みぞれ、霧、もや、煙霧、雷

自動観測は特別地域気象観測所と同様の手法を用い、視程も新たに観測機器を設置して観測します。ただし、雷の観測は雷監視システムと気象レーダーのデータを用いて自動観測します。

（2）目視観測通報の自動化に伴い観測を終了するもの

・天気

快晴、薄曇

・大気現象

現象の分類	目視観測通報の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	着氷性の雨、霧雨（着氷性を含む）、雪あられ、霧雪、凍雨、氷あられ、ひょう、細氷、低い霧、地霧、氷霧、地ふぶき、ふぶき、しぶき、露、凍露、霜 ^{※1} 、霜柱、霧氷、樹霜、樹氷、粗氷、雨水、積雪 ^{※2} 、冠雪 ^{※1} 、結氷 ^{※1} 、たつ巻
大気じん象	ちり煙霧、黄砂、煙、降灰、風じん、砂じん嵐、じん旋風
大気光象	かさ、光冠、彩雲、にじ
大気電気象	電光、雷鳴

※1 初めて観測する霜、結氷、冠雪は従来どおり、初霜、初氷、初冠雪として記録します。

※2 雪が、露場の地面の半ば以上覆う現象（観測値が1cmに満たない場合）

2. 地上気象観測における降雪や積雪に関する統計項目の追加について

令和2年2月3日（予定）より、一部を除いた全国の地方気象台・測候所で目視観測通報の自動化に伴って積雪の有無の観測を終了することにより「日最深積雪 0cm 以上の日数」統計が切断されるため、これに代わる統計として「日最深積雪 1cm 以上の日数」などの統計を追加し、令和元年10月16日より過去に遡って提供しています。これにより、統計開始から均質な統計値の利用が可能となることから、特別地域気象観測所の統計値も新たに追加しました。

また、雪の初終日・雪（降雪）日数の平年値を自動観測相当の値に更新する予定です。

参考までに暫定的に求めた平年値は次のとおりです。

参 考

○積雪の初終日の平年値（暫定値はカッコ内に記載）（統計期間：1981年～2010年）

官署名	初日 (日最深積雪 1cm 以上から算出した初日の平年値)	終日 (日最深積雪 1cm 以上から算出した終日の平年値)
稚内	11月3日 (11月13日)	4月21日 (4月12日)
旭川	11月3日 (11月4日)	4月16日 (4月13日)
網走	11月10日 (11月16日)	4月23日 (4月17日)
釧路	11月29日 (12月1日)	4月16日 (4月11日)
帯広	11月21日 (11月26日)	4月18日 (4月12日)
室蘭	11月16日 (11月24日)	4月7日 (4月2日)
函館	11月12日 (11月17日)	4月3日 (3月30日)

○長期積雪の初終日の平年値（暫定値はカッコ内に記載）（統計期間：1981年～2010年）

官署名	初日 (日最深積雪 1cm 以上から算出した初日の平年値)	終日 (日最深積雪 1cm 以上から算出した終日の平年値)
稚内	11月26日 (12月1日)	4月4日 (4月2日)
旭川	11月22日 (11月23日)	4月8日 (4月7日)
網走	12月3日 (12月6日)	4月3日 (4月1日)
釧路	12月30日 (1月1日)	3月12日 (3月10日)
帯広	12月10日 (12月10日)	3月21日 (3月19日)
室蘭	12月25日 (12月29日)	3月6日 (3月6日)
函館	12月16日 (12月20日)	3月13日 (3月11日)

問い合わせ先

＜目視観測通報の自動化について＞

札幌管区気象台観測課 高野 電話 011-611-6277

＜統計項目の追加について＞

札幌管区気象台防災調査課 浅利 電話 011-611-6149